（政務活動費用）　　（様式１）

出　張　報　告　書

令和８年３月31日

釧路市議会議長　畑中　優周　様

会 派 名
代表者名　齋藤　賢之　印

次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受　命　者	齋藤　賢之
出　張　先	広島県大崎上島町
期　　間	令和８年３月26日～令和８年３月28日（３日間）
用　　務	高効率石炭火力発電施設の見学（大崎クールジェン株式会社）
調査（研修） 結果等の概要	別紙参照
備　　考	

注）１　資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書（原本）とともに会派で保管すること。

２　調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

行政視察報告

日時：令和８年３月26日（木）～28日（土）

場所：大崎クールジェン株式会社

主題：高効率石炭火力発電施設の見学

概要：

釧路には「釧路コールマイン株式会社」と「株式会社釧路火力発電所」があります。これは、東日本大震災の教訓から、エネルギーの地産地消を企図したものです。また、瀬戸内海では、九州地方の石炭と内海を活かした造船業が活発でした。広島県の大崎上島町に中部電力と電源開発株式会社が出資して、2009 年に設立された「大崎クールジェン株式会社」があります。大崎クールジェンでは、石炭ガス化技術（IGCC と IGFC[1]）を使った高効率発電と二酸化炭素の分離回収の技術開発と社会実装を目指しています。これらの事業は、経済産業省、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の事業として実施されています。

昨今、世界的にカーボンニュートラルに向けた潮流が加速する一方で、国際的な紛争が世界規模に拡大する懸念があります。釧路と大崎では技術の目指すべき方向性は若干異なるものの、いずれも脱炭素社会を志向しつつ、石油・石炭・原子力、或いは再生可能エネルギーの活用といったエネルギーミックスを進めるために、現場で培った技術力を活かし、途上国支援に活かしたり、技術者レベルでの交流をしたりすることも必要となると感じました。

報告者：齋藤 賢之

---

[11] IGCC：Integrated coal Gasification Combined Cycle、酸素吹石炭ガス化複合発電
IGFC：Integrated coal Gasification Fuel Cell combined cycle、酸素吹石炭ガス化燃料電池複合発電

OSAKI
COOLGEN